

機械 日本紙工機械、リノベーション技術 低予算で最新鋭機並、最大限の効果

日本紙工機械グループ(本社工場・茨城県北相馬郡利根町早尾2-1、電話0297-61-7117)は1月20日、本社工場でユーザーニーズを最大限に取り入れ、予算と機能を両立させて老朽化グルアを最新鋭機に再生する実践的なリノベーション技術を紹介した。最新技術でリノベーションした紙器メーカー向けワンタッチケースグルア「EF-850P-T」の見学会には、段メーカーやボックスメーカーなど20社余が訪れ、同社のリノベーション技術への関心の高さを伺わせていた。同社のリノベーション技術は、老朽化グルアを独自技術により修理、修復し、新マシン



紙器メーカーに納入するリノベーショングルア

同様に機能を再生するほか、ユーザーニーズを最大限に取り入れ予算と機能を両立、作業内容に最適な改造や最新機能を追加、低予算で一気に最新機種並に生産性を向上する。堅牢かつ耐久性抜群の機械フレームはそのまま生かし、消耗部品の交換・修理に加え、最新の制御システムなどを搭載する事で生産性を飛躍的に改善するほか、老朽化に伴う故障など想定外の費用損失を防止できる。入手困難な部品を全て交換することで汎用品の使用が可能、また省エネ効果も期待でき消費電力を年間10%削減効果も発揮、段取り時間20%短縮効果など、新マシン購入と比較し費用負担は2分の1、3分の1程度と、低予算で新マシン同様の生産能力に老朽化マシンをリノベーション出来るのが大きな特長。

実演稼働した紙器メーカー向けワンタッチケースグルア「EF-850P-T」は、ユーザーの意見を入念にヒヤリングし、生産内容に最適かつ必要な機能だけに絞り込むことで、低予算で最大限の効果を発揮するなど予算と機能を両立したユーザー主導のリノベーショングルア。技術開発が猛スピードで進む制御システムでは、老朽化グルアをリノベーションする事で数年前の新型グルアより最新鋭化する事が出来るなど、段メーカーやボックスメーカーが自社の生産内容により新マシン購入と老朽化グルアのリノベーションを選択、また組み合わせるなど自社に最適な選択肢が広がった。1月末に紙器メーカーに納入したストリートグルア「EF-850P-T」は、給紙駆動の独立インバータ化、給紙シャッターの現行機構化、上竿ステップ昇降化、トロポンポン上駆動の独立インバータ化のほか、バッテリーユニットの現行機構化(新方式)、フック昇降のシリンダ昇降化(同)、移動フレーム位置管理(同)、ラック位置管理(同)、移動フレーム駆動のインバータ化(同)、新構想のバックフィンガー(同)、電気制御新規設計(同)、メインコンピュータ新規設計、無線リモコン採用、六角軸・ネジ棒の無給油化(同)、新型天地折りシステムをリノベーションし、費用を新マシン購入と比較し半分程度、しかし生産能力は最新機種と同等程度にまで向上した。